

試験日 : 2026 年 2 月 22 日 (日)

入試種別 : 大学院入学試験(4 月入学)修士課程 春期試験 一般入試

学部・研究科 : 実践真宗学研究科

科目名 : 専門科目

解答又は解答例

1

(1)

釈尊が太子時代に、カピラ城の東西南北の城門から出て、老人・病人・死人・沙門を見て、人間には老・病・死の苦が避けられないと悟り、真理を求めて出家を決意したという仏伝上の故事。

(2)

善導が『観経疏』等において、浄土教の信心の内容を示したもの。自らは罪惡生死の凡夫で出離の縁がないと知る「機の深信」と、阿弥陀仏の四十八願のはたらきで必ず往生できると信ずる「法の深信」の二つからなる。

2

(1)

仏、弥勒に語りたまはく、如来の興世に値いがたく、見たてまつること難し。諸仏の経道、得がたく聞きがたし。(中略) もしこの経を聞きて信樂受持することは、難のなかの難、これに過ぎたる難はなけん。

釈尊が弥勒菩薩に仰せになった。如来がお出ましになった世に生れることは難しく、その如来に会うことも難しい。また、仏がたの教えを聞くことも難しい。(中略) ましてこの教えを聞き、信じてたもち続けることはもっとも難しいことであって、これより難しいことは他にない。

(2)

蓮華蔵世界に至ることを得れば、すなわち真如法性の身を証せしむ。煩惱の林に遊んで神通を現じ、生死の園に入りて応化を示す。

阿弥陀仏の浄土に往生すれば、ただちに真如をさとった身となり、さらに迷いの世界に還り、神通力をあらわして自在に衆生を救うことができる。

(3)

釈尊と阿弥陀仏は慈悲深い父母である。巧みな手だてをさまざまに施し、私たちにこの上ない真実の信心をおこさせてくださった。

3

当該問題は、宗教的实践に関する受験生の知識・体験・姿勢等を総合的に問うものであり、その解答は一義的でなく解答例の提示にはなじまないことから、以下に採点のポイントを示す。

採点は、以下の点を踏まえて総合的に評価する。

- ・ 解答の字数が設問の指示に従っていること。
- ・ 設問文の内容を正しく要約できていること。
- ・ 自身の考えが設問の指示を踏まえて述べられていること。
- ・ 宗教的实践に関する知識・考察が十分と認められること。
- ・ なお、誤字、脱字等、難のある記述には減点を行う。